

国語 第6学年 書き手の考えを内容の理解、テーマについて考えを述べ合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

考えるという言葉について書き手がどのように説明しているかを、文章の展開と事例を手がかりに読む。書き手の見方を自分の学習や生活の経験に当てはめ、当てはまる部分と説明が必要な部分を分けて自分の考えをまとめる。単元の終わりに残すのは、「考える」についての意見メモ。書き手の説明との対応を示したうえで、友達の意見から加えた視点を追記する。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。

単元の目標

事例と意見がどのような順で示されるかを捉え、文章の構成や展開を理解できる。本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事例と意見がどのような順で示されるかを捉え、文章の構成や展開を理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）	①「読むこと」において、本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げている。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全6時間（読⑥）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、題名への自分の答えと書き手の答えの違いを記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○事例と説明を分け、書き手の考えが述べられるまでの文章の展開を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3	○書き手の説明を自分の実際の経験と結び付け、対応する点と迷う点をメモする。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○本文と経験の関係を説明し合い、友達の疑問を受けて自分の考えを確かめる。	思①（発言・学習記録）
	5	○意見文を書き、本文の理解と自分の意見を読み手が区別できるように直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○意見を交流し、初めの答えに何が加わったかを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認し、自分の最初の考えを短く書く。 ○「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」 【めあて】考えるという言葉について書き手がどのように説明しているかを、文章の展開と事例を手がかりに読む。 〈予想される児童の反応〉 ・答えを知っていることと、理由を考えたことは異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （分）	○「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認し、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・答えを知っていることと、理由を考えたことは異なる。 ・自分の経験の全てが本文の説明に当てはまるわけではない。 ・友達の経験を聞いて別の考え方に気付いた。	「書き手の説明」「経験の実際場面」「そこからの自分の判断」を別の欄に置く。経験が抽象的な場合は、何を迷い、何を確かめ、どう判断したかを尋ねる。想定する難しさ：日常の持論だけを述べて本文が根拠にならない。書き手の意見に賛成することが正解だと思う。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げている。（発言と学習記録）
まとめ （分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の経験を聞いて別の考え方に気付いた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並

べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、日常の持論だけを述べて本文が根拠にならない。書き手の意見に賛成することが正解だと思う。この場合は、「書き手の説明」「経験の実際の場面」「そこからの自分の判断」を別の欄に置く。経験が抽象的な場合は、何を迷い、何を確かめ、どう判断したかを尋ねる。おおむね満足できる状況は、本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

「考える」についての意見メモ。書き手の説明との対応を示したうえで、友達の意見から加えた視点を追記する。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」186行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

